

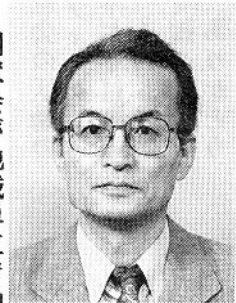
# 波 濤

第 1 7 号

学 会 同 窓 会  
神 奈 川 学 習 セ ン タ ー  
大 会 同 窓 会  
送 送 送 送  
行 行 行 行  
放 放 放 放  
行 行 行 行  
日 日 日 日  
平 成 1 1 年 3 月 1 日  
藤 井 輝  
委 員 会  
編 集 総 務  
責 任 者  
藤 井 輝  
編 集 総 務 委 員 会  
行 放 送 大 学 会

## 同窓会改編から一年

### さらなる展開を!



神奈川学習センター  
同窓会会長  
藤井 輝

同窓会が地域単位で独立して、一年を迎えようとしています。この間私達役員は先輩たちが確立した同窓会の基盤を継承し、同窓会連合会（同窓会相互の親睦と情報共有化を図る機関）を通じて、各同窓会との連携を図りながら、神奈川の特徴をプラスして会の運営に当たっています。

第一に、学習センターの教授陣や事務職員との交流を深め、同窓会活動をご理解いただくと同時に、講演会の講師をお願いしたりで、会員とのコミュニケーションも活発に推し進めてまいりました。

第二は、前回簡単にご紹介した同好会的小集団活動（サークル）の提起に対して、会員からのアイデアや提案が寄せられて来ていることです。これは、これまでの役員からの行事提案型だけでなく、会員の皆さんが会の企画に参画することで親睦の環を拡大し、より強いものにしていくという意図があります。現在、陶芸・絵画・鎌倉彫り・囲碁・ダンスなどの話が持ち上がっています。ただし、会場とか世話役の問題など多少準備時間が必要で、焦らず育てていきたいと思っています。

第三は、社会への貢献として神奈川が進めているフォスター・プランへの参画で、発展途上国の恵まれない子供とその家族に対して、経済的・精神的援助（支援）を目的に協力しているものです。これは会員有志の寄付により運営しておりますが、順調に進んでいます。

第四は、前号の「波濤」第十六号で、終身会員の扱いについてちよっと触れましたが、各同窓会でも議論の対象になってきたことが、連合会役員会で分かりました。ここでは、従来の終身会員制度では運営が困難であるとの判断から、年会費制導入を検討している同窓会が増えています。このようなことから、終身会員の扱いに関しては各同窓会がベクトルを合わせて進めて行く方向で話し合っており、五月の通常総会で審議する予定です。会員の皆さんのご理解をお願い致します。

## 連合会云々より



同窓会が地域単位で独立して、同窓会連合会が誕生して間もなく一年になります。従来同窓会全会員に配布された会報「公孫樹（いちじょう）」が全員に配布されなかったため、今後「連合会だより」として連合会の活動状況を報告致します。（藤井 輝）

一、放送大学と同窓会との懇談会開催  
平成十年十二月四日、放送大学構内若葉会館で開催  
同窓会：鈴木連合会会長、他八名  
阿部副学長、他五名  
吉川学長、嘉治副学長  
放送大学：吉川学長、嘉治副学長

① 双方出席者の自己紹介  
② 同窓会活動の現況報告  
鈴木連合会会長、各同窓会会長

③ 放送大学の現況と今後の展開  
吉川学長から「同窓会は重要な組織と認識している。外国では同窓会が良いところは良い大学とされている」と挨拶があり、大学の現況と今後の展開について、お話しされた。

④ 質疑応答  
⑤ その他 懇親会  
二、卒業祝賀会

平成十一年三月二十一日国立教育会館に於いて、毎年恒例になっております卒業式後の祝賀・謝恩パーティが同窓会主催で行われます。神奈川からも六名の役員が司会などのお手伝いで出席します。

三、図書紹介  
「もち（糯・餅）」―ものとの人間の文化史 89―渡部忠世、深澤小百合 共著  
法政大学出版局

渡部教授と深澤さんは放送大学の師弟であると同時に、農耕文化研究振興会の代表と研究員の問柄で、鈴木連合会長も著者の研究に関して数度に互って東南アジアを歩かれています。同書は鈴木連合会長の推薦です。放送大学にも贈呈されました。

# 第十回通常総会

## 及び講演会

### 開催のお知らせ

神奈川学習センター同窓会第十回通常総会及び講演会を左記の通り開催致しますのでお知らせ致します。

尚、詳細は総会通知書でお知らせ致します。

#### 【総会】

日時 平成十一年五月十六日(日)  
午後一時～

場所 大岡地区センター

#### 【講演会】

講師 等原 潔 放送大学助教授  
総会終了後開催致しますので多数の参加をお待ち致します。

## フオスター・プラン

### 講演会のお知らせ

フオスター・プラン実行委員  
片山 洋子

神奈川学習センター同窓会の活動の柱として行ってきたフオスター・プランへの参加も今年で早七年目を迎えることが出来ました。これも偏に会員の皆様方の温かいご支援の賜物と深く感謝致しております。ありがたうございました。(誠に勝手ながらご寄付に対するお礼状などの送付は、初回のご寄付時のみに限らせて頂いておりますので、悪しからずご了承下さい。)

演会を開催することになりました。今回は講師として(財)日本フオスター・プラン協会の東南アジアチーム松本紀子さんをお招きし、主に東南アジア地域における活動についてお話しを伺います。また、昨年拠出致しましたエルニーニョ災害への特別寄付について、中南米チームの広本正都子さんよりご報告戴きます。

#### 一、日時 三月十四日(日)

午後二時～四時

二、場所 放送大学神奈川学習センター

一講義室(当日玄関ロビーに掲示します。)

#### 三、講師

(財)日本フオスター・プラン協会 松本紀子さん  
フオスター・プラン活動の

四、演題 指針と現地プロジェクトについて

問合せ先 藤井 輝  
(0467861317)

### 鎌倉散策に

#### 参加して

片岡 久雄

快晴に恵まれたさる十月四日神奈川学習センター同窓会恒例の鎌倉散策シリーズ第四回が行われ私も初めて参加させて戴きました。今回のコースは、大町、材木座方面



の社寺、名所旧跡巡りである。小学唱歌の「鎌倉」や「鉄道唱歌」には出て来ないところで観光的にはあまり賑うといった所ではない。しかし、鎌倉新仏教誕生の立役者の一人である日蓮縁の寺も多く宗教的には重要な意味をもつ地域である。参加者の中にもこの地を訪れるのは初めてと言う人も多かった様である。散策を通じて改めて鎌倉の歴史の重みというものを感じた。

的である大巧寺に向け出発した。続いて本覚寺、妙本寺、常栄寺(ぼたもち寺)、八雲神社、別願寺、安養院、妙法寺の八カ所を訪れ午前の行程を終了した。妙本寺の老杉の太木、安養院の石仏、妙法寺の歌壇、苔の石段、裏山の散策がそれぞれ印象に残ったが、これらの社寺が鎌倉駅より徒歩約十分位のごく近くにあるにもかかわらず若宮大路や小町通りの喧噪とは違って交わり静けさの中にあることにまず驚かされた。また、散策地はちょうど秋の草花の咲き始めたところで、お寺の境内や住宅地に発見する草花が私達一行を楽しませてくれた。鎌倉はお寺の多いことで有名である。日蓮達の説いた新仏教に当時の人々ほどのような救いを求めたのであろうかと思いを巡らせながら休憩所に向かった。昼食はお休み所(一乗庵)で各自持参の弁当を食べた。食後の談話の後次回の散策希望地のアンケートをとり午後の目的地に向け出発した。午後は少し足をのびし鎌倉と逗子の境にある「名越の切通し」と曼陀羅堂跡を見学した後もと来た道を戻り安国論寺と長勝寺を訪れた。安国論寺では裏山の富士見台、巡礼路を散策。長勝寺ではテープの読経に時代の流れを感じ今回の全行程を終了した。

一日でこれだけのところを訪れることができたことは行き届いたスケジュールのお陰である。午後四時鎌倉駅に戻り一旦解散した後希望者による親睦会が行きつけのお好み焼屋で開催された。欠席者がいたのは残念であったが顔なじみの人も初めての人とも和やかに話せることができたのも同窓の誼みと云うものであろうと感謝した。六時頃閉会、再会を楽しみに帰途についた。

# 見学会の楽しみ

皆川 昭三

放大同窓会に入り初めての研修イベントに参加できました。二十一人の美男美女が揃い江戸東京博物館のエスカレーターで一気に六階展示場に向かう。

東京の歴史と文化を江戸ゾーン出たっぶり学び、武士の暮らし、町の暮らしを絵図や展示品で偲び、又出版物と情報コーナーでは、絵草紙屋店頭、彫師、絵師、摺師による版元迄の経緯を知ることが出来る。特に興味を惹く錦絵の紅摺絵の多色摺、複雑な色調表現、職人の技術は大したものですね。棟割長屋のお産の風俗や芝居と遊里の建造モデルの前に立つと、古い昔に引きずり込まれ、懐古の念頻りでした。事細やかに描写していきたいが、紙面の都合で以下お気に召すままピックアップします。

一、誰もがご存じの《茶道の系譜》は今も続いている。茶の湯は江戸初期、主に武家の文化として成熟したよう。古田織部、小堀遠州、片桐石州が將軍の茶道師範を務めた事から武家社会に普及し、中でも幕府の御用流派となった石州流が盛んだった。一方上方では、千家や藪内家の茶が町人の間で広く嗜まれ、説くに千家の茶は門人達によって全国へ広まったという。一七五五年、表千家七代の高弟川上白が千家直伝で新風の茶道を江戸にもたらすと、幕閣の諸大名や津軽家御用達商や、札差の青地宗三郎など多くの町人が不白の門に入り、これまでの石州流その他の流派を凌ぐ勢いとなり「江戸千家」と云われるようになった。

二、《庶民の旅と祈り》の絵図は多い。江戸時代には街道や宿場の整備もあって参勤交代で往復する武士の旅、上方や江戸を往来する商人、信仰、物見遊山の庶民の旅が発達した。江戸市中と近郊にはミニ霊場の巡拝コースや様々な神仏参拜地が数多く設けられた。神社仏閣は行楽地と重なり江戸名所として多くの出版物によって紹介され、地方から来た人々の江戸めぐりが盛んになった。中でも江戸六地藏参りは、江戸の東北部と周辺部に。阿弥陀参りは東北部と四谷青山辺、芝高輪目黒辺に。観音参りが最も多く浅草寺から目黒滝泉寺にかけて古来の札所を始め東北部を巡る坂東三十三ヶ所の写し、西部の西方参り、西北部の山の手、北東部の近世江戸三十三ヶ所、上野王子駒込辺、葛西地域を巡る葛西三十三ヶ所観音参りなど。福神巡りとなるのが谷中七福神、向島七福神、山の手七福神、他に弘法大師、法然上人、日蓮上人、閻魔、弁天様などゆかりの巡拝地も庶民の旅として賑わった様子がわかりました。屏風や絵図、或いは記録(例えば宮下伴右衛門の記した公事訴訟江戸滞在日記)によって草鞋履きの旅装が偲ばれる。

三、《吾原の一日》を見る絵図も楽しい。早朝寅の刻に客を送る後朝の別れ、卯の刻辰の刻に僅かな睡眠、巳、午の刻に起床、入浴、化粧、掃除、午から申にかけて昼見世が始まり酉の頃から夜見世で格子戸から顔を見せる媚び始まり夜おし子の刻まで客の相手をする。幕府公認の遊廓として約三、六千人余りの遊女が華やかな妓楼で贅を尽くした遊興が、日夜繰り広げられたのであろう。遊女の身なりは流行の先駆けともなり、浮世絵の好画材となったり洒落本など多くの文芸作品に

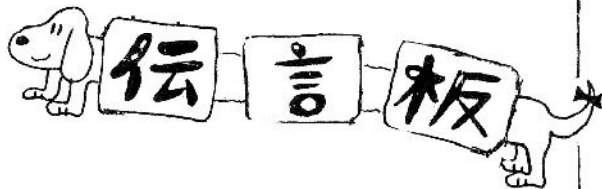


取り上げられ、江戸独自の文化形成に大きな役割を果たしたといえよう。

四、《家計と暮らし》を示す蔵米取の武士の俸禄、御張紙値段、札差の話、借金の手引きを命じて旗本、御家人を救う棄捐令、株譲りの話、江戸の舟運、近郊の村々の風と乾燥土との闘い、畑作耕地に絡む開拓秘話、自由民権運動の展開、これらの説明を讀むうち、日本橋北詰に開いた町人地の模型が物悲しく見えて仕方ない。狭い一戸一戸が藓めき、当時使われた日用品、彼らに

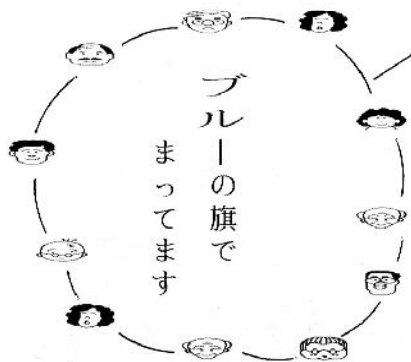
硯は悲しい語りかけの道具だったのかもしれない。それに較べ広大な土地に構えた大名屋敷。江戸に百六十家、郊外に百四家が所在。それら諸藩の江戸経費が加算百二万の一七、一六六七両を筆頭に、5万石の和泉でも九三六〇両など、江戸の支出と国許の支出がほぼ同程度、国許の民百姓の生活は如何ばかりか。

五、《線乱》とは、入口にその説明が張られた元禄線乱展、真実の忠臣蔵と元禄を彩る華やかな絵巻、藏品、屏風を足早に見て外へ出る。遅くなった両国のちゃんこ鍋を開んで卒業後の目標や取り組みを語り合い、談笑は果てしなく続く。腹ごなしに界限の散策だ。歴史と文化の散歩道に先ず東都六地藏の一つ名は見落としたが、数千本の犬猫供養のお塔婆、風小僧次郎吉の墓、海難供養碑が六基と溺死群生追悼之塚、手を合わせ冥福を祈る。本所松坂公園で赤穂義士の討ち入りを記した説明板、吉良上野介義央の上座敷跡地標柱、首洗井戸、この錦絵が白壁の塀に嵌込まれ、更に討入後の引き上げる様が描かれている。傍の元禄八重桜が当時を知るや否や。石碑「赤穂義士遺跡、吉良邸跡」見学者が続く。近くに相撲部屋、出羽海部屋、井筒部屋、春日野部屋、時津風部屋、玄関の戸を開けると目の前が土俵、奥の板間に力士が三人昼寝をしていました「御免」そして、勝海舟生誕の地、その由来碑によると、男谷精一郎邸内で生まれ幼名を麟太郎と呼び、剣は島田虎之助に師事、咸臨丸艦長として太平洋横断を成し遂げた。そして慶応四年三月十三日、高輪薩摩邸に於いて大総督府参謀の西郷隆盛と会談し、江戸城開城を決定した。と記されていた。

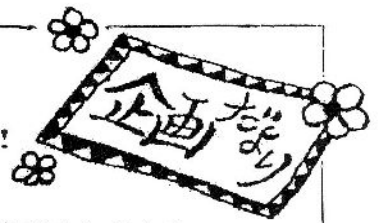


5月16日総会 後  
笠原 潔 助教授  
(西洋音楽史)  
の「講演」があります。  
お楽しみにしていて下さい。  
そして、是非参加して下さい。  
詳細は、総会通知で追って  
お知らせいたします。

10月に  
第5回の鎌倉散策を予定して  
います。  
楽しくアカデミックな?  
散策となることを・・・  
ご期待の程!



「森」へ行こう!



今回は、目新しさでは負けない企画をしました。  
何しろ、平成11年4月24日オープン(一部)  
するという、2区4町(旭区、緑区)にまたがる  
動物園です。熱帯林や、亜寒帯の森など、実際に  
生息する気候帯別に作られたゾーンは、これまで  
の動物園とはひと味違った特徴と、魅力があふれ  
ているようですので、いち早く、皆さんと共に、  
体験してみましょう。

それから、夕暮れどきまで時間の許す方は、近  
くにある県立四季の森公園で、螢の幻想的な光を  
見ながら、暫しロマンティック&ノスタルジック  
な気分になってみましょう。ホタルの出動ピーク  
は19時前後ですが、働き者は18時ころから出  
勤するようですので、お楽しみに・・・皆様の参  
加をお待ちしています。

日時 6月20日(日)  
場所 横浜動物の森公園(045-954-1288)  
県立四季の森公園(045-931-7910)

入園料 600円  
集合 JR中山駅 改札 PM1時30分  
申込締切 5月30日(日)  
申込先 担当 佐々木順子 TEL045-472-6482  
〒221-0864  
神奈川区菅田町1867

雨天中止、はっきりしない時は、当日11時頃ま  
でに電話確認して下さい。

尚、螢をみる前か後、軽くお茶or食事をする  
予定もありますが、この件は時間を見て、皆さん  
で相談しようとおもっています。

第16号波濤の、企画だより  
伝言板、へのご意見



卒業生によるサークルの発足にむけて、前回の「波濤」に、卒業生によるサークル作りについての記事が掲載  
されておりましたが、そのことについて若干述べさせて戴きます。

放送大学も年々多くの卒業生を誕生させており、卒業後もそれぞれの道でご活躍のことと思います。  
もっとも、再入学(または再々)されている方も多いと伺っていますが、  
それも放送大学ならではのことでしょう。

言うまでもなく大変幅広い年齢層と、さまざまな環境にいられる方々ですが、  
趣味、特技といった分野においても、多彩なものをお持ちのことと思います。  
それらを通じて仲間作り、友人作りができたらとても嬉しいことだと思いますし  
企画委員のご提案に賛同いたしました。

その後、具体的な内容としては、進展していないようですので、今回再度私からも提案させて戴きました。

- 1、無理のないこと(特別に会場を確保したり、常時指導者を必要とするものは避ける)
- 2、長続きすること(興味と楽しさが主眼)
- 3、年齢、性別、経験の有無に係わらず参加できること。
- 4、戸内と戸外、または、スポーツ的なものとそうでないもの等、2種類程度が理想。
- 5、推進者(まとめ役としてのリーダー)が必要なこと。

さあ、皆さんのアイデアに基づき、具体的なサークルを発足させませんか。  
私も仲間に入れて戴きたい一人として。

西浦久晏 TEL-045-781-4638



# 《第三回》

## シベリアに

### 黒い太陽を追って

田澤 誠 一

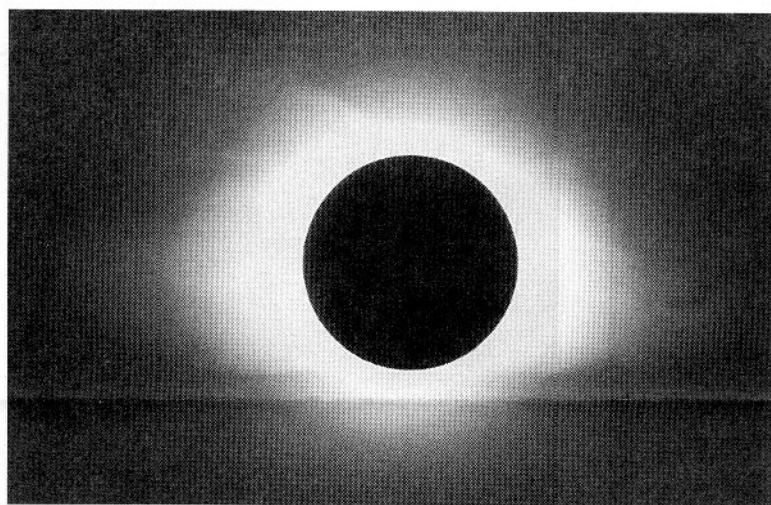
田澤 誠 一

シベリアまで黒い太陽を追って来たものの観測地が決まっていないう言うハブニングで始まった今回の天体ショー：いよいよ当日になった。やっと決まった観測地・空港は、非常に条件が良かった。特に待合室が暖房、トイレの心配がなかった。しかし、相変わらずハブニングは続いて起きた。

第一接触を撮るため機材を外に出して、撮影後機材を室内に戻す時に、外はマイナス二十二度、室内は当然プラス。シマッタ！氷結と言う文字が脳裏を過ぎる。ペテラン諸君の意見を聞くと、氷結しても一時間はあるから戻ると言われホイホイと室内に戻した。結果、全然氷結していない。ここは、日本と違い湿度が限りなくゼロなのだ。取り敢えずホツとした。機材を点検するとホカロンが凍りついている。全然暖かくない。ホカロンを暖めず機材に張り付けた俣であった。残りのホカロンを腹の中に入れ暖める。第一接触から観測していたので、第二接触三〇分前には、赤道儀の電池が無くなり、カメラの液晶が消えるという散々の状態を目の前にした。腹で暖めていたホカロンを赤道儀、デジタルビデオにベタベタ張り付け機材を持ち出し、気が焦るな無事機材のセット完了。一〇分持つかな？何とかもってくれ！と祈りながらデジタルビデオの

スイッチを入れスタート。ここで問題発生。どうやってでもヘール・ポップの位置まで入れるようにするとフィルムを巻くレバーが軸にぶつかり、フィルムが巻けないことに気付いた、が為す術もなく一枚勝負と思いつめた。第二接触三分前の声を聞く。足下が何かゆらゆらしている。あれ、シャドー・バンドだ！と言う声が上がった。「いや、三分前ではシャドー・バンドは見えない。」と私は言い切った。今までの知識では、接触前後一分から三〇秒位に見えると言う事だった。しかし、この知識は完全に覆された。ビデオの「ゆらゆらしている」との音を頼りにカウントしたところ三分五九秒前から始まっていた。過去三回の皆既日食で一回も見たことが無いシャドー・バンドが嵐の如く、幅広から高速に移動するもの、幅が変わるもの、とにかく凄まじいものであった。第二接触一分前にデジタルビデオの向を直しに行くと、バッテリー表示が出ていた。五分持たないのか、どうにでもなれ！と思いつつ太陽を中心に直し、カメラの方に戻った。第二接触一〇秒前の声が聞こえてカウントダウンして行き、ついにゼロ。明るさがスーと引くその後、《ピカッ》。ダイヤモンドリング。更に《ブアウィツ》とコロナが開く。予想通りの翼型コロナと思ったがまたしても、左上にコロナが出ていた。誰かが「ヘール・ポップが見える！」予定通りシャッターを切る。メイソンの二四mと同時撮影三〇秒のシャッターを切る。カウントしながら太陽をよく見、ヘール・ポップを探す。アレツ、無いと焦って探す、探す、探す、有った！発見！カウントは途中で途切れて三〇と数え終わる前に、食最大の声が過ぎていた。数え終え、レリーズを戻す。カシャ・・・

あれっ一つしか戻っていない。メイソンの二四mの方が戻っていない。フィルムが巻けない。《駄目か！》しかし、ここでめげてはいけない。四〇〇mのF値を換えシャッターを切った。第三接触の声を聞くとF値を戻すのも忘れ、ダイヤモンド・リングに備える。



カウントが過ぎ少し経つと、《ピカッ》カシャ。カシャ。二枚シャッターを切った。ヤッタ！成功！成功！と大声を上げ、五月女君とはしゃいだ。彼は、双眼鏡一つでの観測、ヘール・ポップの二本の尾が見えたと言っていた。初めての日食、大いに感動したようだった。これでまた一人、【日食病患者】が増えた。デジタルビデオの方へ行くと、ヤッタ！まだ動いている。

記念にビデオ撮影も、下を見るとシャドー・バンドの嵐。どの位続いていたかはチョット浮かれ過ぎたかな？資料として残って無い。残念！。赤道儀を片付ける時、ギユ、ギユとほとんど動かない状態。三〇分で赤道儀のグリスが凍り付いたようだった。マリン仕様のビデオが曇ってしまった人もいた。機材を撤収し、大成功を納めてホテルへ帰りのバスは、排気ガスの臭いが立ち込めていたが、緊張感が緩み眠気が充満していた。ホテルで荷造りをし、観測地であった空港へ行き、ハバロフスクへ戻る。成功の乾杯。ウオッカに酔いしれ、いつものメンバーとまた、最後まで騒いでいた。その時に、添乗員の近藤さんが《ヨロチ見たか？》とつぶやいたのを聞いた。何と仕事熱心な人と感心してしまった。彼は、ひたすら、時計係に徹していたのであった。三月十日、午前中市内観光をして、新潟空港へ無事到着。NHKのTVカメラが待ち構えていた。〔完〕

【一九九九年ヨーロッパ皆既日食】  
 皆既場所が東大西洋から始まりヨーロッパを通りバングラデッシュまでと比較的容易に観測場所に行けます。  
 今年の個人的企画は、  
 旅程 八月七日〜十七日（十一日間）  
 観測場所 トルコ共和国のエラズ：  
 イスタンブールから飛行機で東へ一時間三五分  
 皆既最大 二時三六分二四秒（UT+三h）  
 皆既時間 二分一〇秒  
 備考：日本から明星大学、京都大学、東京天文台のチームが行く予定。  
 通常のツアーと違いますが、一緒に旅して見ませんか。  
 田澤誠一（☎016816616050）

# 放大神奈川合唱団からのお願い

皆川 昭三

御卒業後、それぞれ新しい目標を掲げ日夜御精励の事と察します。健康で張りのある日常を、より美しく、より活性化のため、合唱団に御加入されることをお奨め申し上げます。

放送大学数ある学習センターの中で、今最も充実しているのが神奈川です。毎回の卒業式で中心になっていきます。皆さんも是非一緒に試してみませんか。特に男声を大歓迎です。

記

1. 練習日 毎月第1、第3木曜日 (但し、試験準備月を除く)
2. 場所 神奈川学習センター第2講義室 (但し、面接授業で使用できない場合は大岡センター音楽室)
3. 時間 夜6時30分～8時30分
4. 練習曲 学歌、学生歌の他希望曲を選んで練習し音符はその都度解説して覚えるようにしています。
5. 会費 1500円/月
6. 問い合わせ・申し込み 島田貞子 ☎ 0466 44 5430 赤松孝子 ☎ 044-288-0655  
皆川昭三 ☎ 045 844 6463

## 同窓会年会費 納入のお願い

同窓会では、会員の皆様には年会費1,000円を納入して戴いております。

就きましては、同封の郵便振込用紙にて、平成11年度年会費をご送金下さいませようお願い致します。

尚、領収証は振込票の控えをもって代えさせて戴きます。

また、平成10年度年会費未納の方にも振込用紙を同封させて戴きますので、ご協力をお願い申し上げます。尚、既に納入済みの方はご容赦下さい。

口座番号 00250-4-16183

〒232-0061

横浜市南区大岡2-31-1

放送大学神奈川学習センター

同窓会事務局

問合せ先 会計担当 久保

☎0463-74-1055

## フォスター・プラン報告

フォスター・プラン実行委員

伊東 廣明

神奈川学習センター同窓会では会員の皆様の暖かいご協力でフォスター・プランへの国際協力を続けております。今年も活動計画に基づいてフォスター・チャイルド4名への援助継続と交流を行っています。

- 1) ルーシーちゃん (9歳 ケニア)
- 2) バロバラちゃん (13歳 バングラディシュ)
- 3) ソムチャイ君 (12歳 タイ)
- 4) レオニダス君 (5歳 エクアドル)

4名のチャイルドからお礼の手紙や可愛らしい絵が送られて来ましたので1月17日～2月7日の間、談話室にパネル展示させて戴きました。尚、今年も振込用紙を同封させて戴きますが、今後もこの活動がより発展しますよう皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

問合せ先 藤井 輝 ☎0467-86-3187



## 計 報

次の方々の計報がご家族から  
有りました。  
茲に、謹んでご冥福をお祈り  
申し上げます。 合掌

天野 友子様

(平成五年 社会と経済)

平田 稔郎様

(平成七年 社会と経済)

### 編集後記

日増しに空の色が生氣を帯びて漸く春めく。何気なく見過ごしがちな都会を包む空気さえ心地よい。恋猫ならぬ恋男を気取り町に繰り出そうか、などと柄にもなく冗談めいていると辺りは夕闇。紺青に染まる二月の夕景は冬のままであった。

夜空を尋ねる。「すばる」が見せる宇宙に驚きと興奮を覚え、肉眼のオリオンと静謐やシリウスの輝きに美しさを思う。都会は明るく星は見え難いが、「すばる」で見た星の姿は私たちが見ている星なのである。今日も星を尋ねてみようか。

編集人の端くれとして会報に携わってきたが、後記は初めてであった。拙い小文を発スのは苦勞の連続であった。一読後笑うもよしの拙文である。

(片野)